



英国会計・税務ニュースレター

今回のテーマ： 英国会計基準（FRS102）改正についてのアップデート

はじめに

2024年3月27日、英国財務報告評議会（FRC）は、改訂版 FRS102 を公表しました。本稿では、[ニュースレター2023年第6号](#)のアップデートとして、当該改正の概要をお伝えいたします。

なお本記事は、Grant Thornton UK LLP が作成したものに、弊社で翻訳・加筆したものになります。英文記事の詳細は、[Changes to FRS 102 announced - What do I need to know? | Grant Thornton](#) をご参照下さい。

適用時期等

改正後の FRS102 は 2026 年 1 月 1 日以降開始事業年度より適用され、早期適用が認められています。主要な改正点は、収益認識について国際財務報告基準（IFRS）第 15 号「顧客との契約から生じる収益」とより密接に整合した新しい 5 段階モデルを導入すること、及び IFRS 第 16 号「リース」と一定の実務上の便宜を図った上で整合させる点となっています。なお FRC は本年 5 月に改正基準に関する [Webinar](#) を予定しています。また、改正後の FRS102 については、[こちら](#) を合わせてご参照下さい。

改正の概要（収益認識・リース）

今回の改正では、FRS102 を IFRS と整合させるために、収益認識とリースに大幅な変更が加えられています。

収益認識に関する新 FRS102 Section 23 では、IFRS 第 15 号に沿った 5 段階の収益認識モデルが導入され、収益認識の方法が変更される可能性があります。なお新 FRS102 においては、IFRS 第 15 号と比較して、契約獲得費用の取扱いやライセンス収入の取扱い、プリンシパル・エージェントの検討、並びに類似契約グループへのポートフォリオの適用や割引・契約変更等の取扱いに関していくつかの簡素化が図られています。

新 FRS102 Section 20 に基づき、ほぼ全ての借手は、使用权（ROU）資産と対応するリース負債を貸借対照表上認識する必要があります。ROU 資産はリース負債の現在価値と一定の調整額に基づいて計上され、負債は IFRS 第 16 号の簡便な方法を用いて割引く必要があります。これらの変更により、従前のオペレーティング・リース費用は、ROU 資産の減価償却費とリース負債の金融費用に置き換えられることとなります。

なお小額リース・短期リース（基本的にリース期間が 12 ヶ月以内のもの）については免除規定も定められています。（FRS102 20.5, 20.8, 20.6, 20.9 to 20.12）。IFRS と比較した簡素化の一環として、例えば FRS102 Section 20 では、最も重要なリース資産（20.11 に列挙されている）が貸借対照表上認識されることに重点を置いており、その他の資産が小額（Low value）であるかどうかを判断することについては企業にある程度の柔軟性を認めています。グループ会計方針との整合性を図る等の理由から、Low value かを判断する閾値をより低い水準に設定することも認められます（FRS102 B20.8）。

これらの変更は、利払・減価償却・税引・償却前利益（EBITDA）やその他の主要業績指標の計算に影響を与えることが予想されます：

- 取引で支払われるアーンアウトの価値
- 従業員奨励制度で支払われる金額
- 財務制限条項（コベナンツ）の遵守
- 法定監査の適用対象範囲に入るか否か

企業に求められる対応

新基準に対応するため、企業はデータの更新、システム能力とプロセスの評価、経営報告と予測フォーマットの見直しなど、改正基準の要件を満たすための投資が必要となります。さらに企業は、シームレスな移行と予定される変更への継続的な準拠を確実にするために、経理・財務チームのトレーニングやスキルアップを行う必要があります。

提案されている発効日は2026年1月1日ですが、移行に備え最善の準備をし、この変更がどのような影響を与えるかを理解するために、企業は今から戦略的な準備を開始し、プロセスの遅延を避けることが重要となります。

企業は、本改正が財務諸表、システム、プロセスに与える潜在的な影響を慎重に評価する必要があります。これには、投資家、金融機関、従業員などの利害関係者との効果的なコミュニケーションを計画し、財務指標や税務上の位置づけの変更について明確性と透明性を提供することも含まれます。

以上